

JavaScript研修

jQuery編

10. 文字数カウント

10. 文字数カウント

簡易文字数カウントをイベントで実現、
文字数オーバーを制御しよう

A solid orange circle containing the word "ポイント" (Point) in white Japanese text.

ポイント

- ・文字が入力されたかどうか
- ・文字数を数える

10. 文字数カウント

HTML

<p>この映画の感想を10文字以内で入力してください。</p>

<textarea cols="30" rows="10"></textarea>

<p>現在0文字</p>

10. 文字数カウント

JavaScript

```
$(function () {  
    $(1).2(function () {  
        var 3 = $(4).5().6;  
        $(7).8(9);  
  
        if (10 == 11) {  
            $(12).13(14);  
        }  
        if (15 > 16) {  
            $(17).css(18, 19);  
        } else {  
            $(20).css(21, 22);  
        }  
    });  
});
```

10. 文字数カウント

- JSを発生させるタイミング → 文字が入力されたとき
- どんな風に変えるか？ →
 - ・入力された文字数を数字で表示
 - ・10文字オーバーなら赤字で表示
- 具体的には？ → 文字数を取得し、文字数に応じて表示を変える

10. 文字数カウント

- `.keyup`(関数)

キーボードが押されたとき(正確にはキーが押されて、上がったとき)関数を実行
`.keyup`されるたびに、文字数を1カウントとする。

- `.length`

対象の要素の数を数える

→今回は、「`textarea`の`value`の文字数」をカウントしたい

10. 文字数カウント

【復習】

- `.val(valueの中身)` value要素を取得する

これらより、

```
$( 'textarea' ).val().length;
```

で、「テキストエリアのvalueの文字数を取得」という意味

10. 文字数カウント

● `.text();`

- ・要素内に指定したテキストを挿入(書き換え)する

(例)

```
$( 'p' ).text( 'こんにちは' );
```

→pタグ内のテキストがすべて「こんにちは」に書き換わる

10. 文字数カウント

●.text() と .html() の違い

どちらも要素の中身を書き換えるという点では同じ。

(例)

`$('p').text('こんにちは');` → 結果は `こんにちは`

`$('p').html('こんにちは');` → 結果は **こんにちは**

10. 文字数カウント

● 練習問題1

テキストエリアで、入力文字数が10文字以下なら

「あと●文字入力できます」と表示し、

10文字以上なら「文字数オーバー」とハイライトカラーで

表示するプログラムを作成してください。

10. 文字数カウント

● 練習問題2

入力フォームで、未入力項目があったまま送信ボタンをクリックするとエラーメッセージを表示するようなプログラムを色々な方法で作成してください。